ごあいさつ

いま我々が成すべきこと
～被爆地ヒロシマから新たな一歩～

第55回日本赤十字社医学会総会
会長　**古川 善也**
（広島赤十字・原爆病院 院長）

はじめに、2018年7月に発生した西日本豪雨災害におきましては、発災直後から全国の赤十字施設から多くの仲間たちが集まり救護活動に当たっていただきましたことについて、被災県を代表して心から御礼申し上げますと共に、赤十字の絆と使命を強く感じる機会となりました。

さて、第55回日本赤十字社医学会総会は、中四国ブロックの広島赤十字・原爆病院が担当させていただきます。会期は2019年10月17日（木）、18日（金）の2日間、会場はメイン会場として広島国際会議場、サブ会場として広島市文化交流会館で開催することといたしました。メイン会場は広島市のシンボルのひとつである平和記念公園の敷地内に位置しており、利便性の高い場所です。

メインテーマは、「いま我々が成すべきこと ～被爆地ヒロシマから新たな一歩～」といたしました。ご存知のとおり1945年8月6日、人類史上初の原子爆弾が広島に投下されました。当初、数十年は草木も生えないとも言われたなか、驚異的な復興を遂げ今では平和を先導していく中心的都市として発展してきました。

今回のテーマは、被爆地ヒロシマが復興してきた歩みをさらに一歩進め、赤十字として、また医療に関わる者として「平和」・「生命」・「人道」をどのように発展させていくかについて考える機会とするとともに、多くの医療施設が厳しい経営状況であるなか、経営改善のきっかけやその手法を皆で考えるスタートとしたいとの思いを込め、このテーマといたしました。

令和最初の医学会総会は、本年7月に新たに就任されました大塚義治社長の特別講話で幕開けとさせていただく予定です。社長が赤十字と関わりはじめてからの思いや近衛前社長（現名誉社長）との思い出、今後の赤十字活動の展望などについてお話しいただくこととしており、令和最初の

新たな一歩にふさわしいものとなりました。

特別講演には、公益財団法人放射線影響研究所の丹羽太貫理事長をお迎えし、被爆や放射線について科学の観点からお話しいただく予定です。また地元企業のマツダ株式会社からは、独自の発想で厳しい自動車産業を生き抜いてこられたノウハウを経営戦略の観点からお話しいただく予定です。

シンポジウムは2題用意いたしました。1題目は被爆地で開催される医学会として、いのちと尊厳について様々な角度から検討していただくため、会場に隣接する広島平和記念資料館の前館長や青少年赤十字の指導者、国際救援を行う特定非営利法人の理事長、赤十字からは国際人道研究センター所長をお迎えし、それぞれの立場や観点から考えるいのちと尊厳についてお話いただきたいと考えています。また、2題目は赤十字医療施設の共通した課題である経営改善について取り上げました。医療を取り巻く状況は大変厳しくなっていますが、この様な中でも経営改善に向けて様々な工夫をされ、結果を出されている赤十字病院の院長先生方に経営戦略の道筋を示していただくお話をしていただくこととしています。

医療人の集いは、会場に程近いANAクラウンプラザホテル広島で開催することといたしました。広島は海山の多彩な食材に恵まれており、呉や西条は全国的に有名な酒どころでもあります。旬の食材とおいしいお酒で皆さまをお迎えしたいと思いますので、ご参加をお待ちしています。

今回事前参加登録していただいた方には、今春リニューアルした広島平和記念資料館へ無料で入館できる特典をお付けしております。また、学会終了後には、資料館と合わせて原爆ドームの見学もお勧めいたします。その他にも、ウサギの島として若い女性に人気のある「大久野島」、坂道と猫の街「尾道」、戦艦大和建造の地「呉」、世界遺産「宮島」などを巡る観光ツアーを4コースご用意いたしましたので、ぜひお楽しみください。

今回の学会は中四国ブロックが担当しております。皆様に、参加して良かったと思っていただけるような学会にするため、中四国全施設で力を合わせて、心を込めたおもてなしをさせていただきたいと考えております。一人でも多くの方にご参加いただき、赤十字事業の更なる発展のため全国の赤十字の仲間と絆を深め顔の分かる関係作りの良い機会となることを願っております。広島でお会いできることを心より楽しみにしております。